

K

O

R

E

コ
レ
ミ
テ
学
史
考
歴
民
展

M

I

T

E

VOL.4

アットウシカラペ
イキサプ
カラパシ

メノコイタ
スワッ
イタ

ラッチャコ
マキリ
チノイエタッ
サラニア

クワリ

カリパペカパ
マトンプシ

マカニツアイ
ムックリ



ごあいさつ

東北学院大学博物館は2009年秋に開館した大学博物館です。大学の研究成果を社会にお伝えするとともに、博物館学芸員資格課程の実習の場として活動を続けています。一方、大学院生には学芸研究員制度を設けています。雇用された大学院生は展示作成、展示解説、資料整理などの実務にあたっています。こうした教育活動によって、学芸員としての経験と実績を積んだ学生・院生から、近年は毎年複数名の博物館学芸員、教育委員会の文化財担当職員を輩出しています。

本書は当館の収蔵品の解説書です。いわゆる収蔵品図録は、一般的には資料そのものの物質的な情報に加え、その資料の全体像を示す資料写真で構成される淡々としたものです。それに対し、本書の意図するところは「読んで楽しい収蔵品図録」、そして「学生の視点で作る収蔵品の解説書」です。掲載する資料の写真は、学内実習の博物館実習生が撮影し、見どころや解説文は、学芸研究員の大学院生と学部生が執筆しています。大学博物館で学ぶ学生・院生の共同作業による図録作成は、実習の成果をかたちにするものであり、専門的な内容をわかりやすく解説するものになると考えています。

今回は、アイヌの復元民具のコレクションを紹介します。本書に掲載されている復元民具は、2017年度に北海道沙流郡平取町二風谷さるぐんびらとりちょうにふたにの工人、高野繁廣さんをお願いして製作していただいたものです。二風谷の木工は、国の伝統的工芸品に「二風谷イタ」として指定されており、高野さんもその製作に従事されています。今回復元をお願いした民具は、かつて萱野茂が収集し、現在は国の重要有形民俗文化財「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」に指定されている民具をモデルとしています。復元にあたっては、詳細な製作法や材料について記した萱野茂『アイヌの民具』（すずさわ書店、1978年）の記述を参考に製作していただきました。

こうした資料を博物館実習の一環で学生たちが展示するなどして、文化財に親しんでいただく企画を継続していきたいと考えています。

東北学院大学博物館

かやのしげる 萱野茂とアイヌ民具

萱野茂(1926-2006)は、北海道沙流郡平取町二風谷さるぐんびらとりちょうにふたに生まれです。自身が「アイヌの風習と共にアイヌの民具を遊びの友として成長した」(『アイヌの民具』はじめにより)と述べているように、彼にとってアイヌ民具は身近な存在でした。

しかし、高度経済成長とともにアイヌの人々の生活は変容していきます。アイヌ文化が消えることを危惧した萱野茂は、1950年代からアイヌ民具の収集を始めました。実際に日々の暮らしで使われるアイヌ民具を集めるだけでなく、アイヌの古老たちから直接指導を受けながらすでに使われなくなった伝統的な生活用具類の製作も行いました。

萱野茂の民具コレクションは現在、平取町立二風谷アイヌ文化博物館・萱野茂二風谷アイヌ資料館に収蔵され、公開されています。平取町立アイヌ文化博物館に展示されているものを含め、1,121点が「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」として2002年に国の重要有形民俗文化財の指定を受けました。



復元されたチセ(家屋)



萱野茂二風谷アイヌ資料館

アイヌ民具の再現

糸をよりながらウウエペケレ(昔話)をアイヌ語で語ってくれる祖母、いろりのある典型的なアイヌ家屋、萱野茂はこのような環境のなかでアイヌの風習とともに、アイヌの民具を遊び道具として育ちました。自らのこうした経験やアイヌの古老に聞いた話をもとに『アイヌの民具』という本を書き上げました。この本には309種類の生活用具と16種類の施設、そしてそれらの材料百数十種類、26の食品が掲載されています。

アイヌの人々は、物に魂があると考えており、古くなった道具も生き物と同じように扱います。穴が開くなどして使えなくなった道具は自然に朽ち果てさせます。そのためアイヌの人々が使っていた道具は、現に使っているもの以外に残りません。

今回再現されたアイヌの民具も、本に書かれている材料などの情報をもとに復元しました。

暮

狩

装
表

遊

祭

アイヌの人々が身に付けていたものは、実用性に富みながらもオシヤシさを兼ねそろえていました。どんなものがあったか見てみましょう。

装
表

オシャレ
アイテム?



マタンプシ

男の鉢巻き

- 寸法：縦9.2cm×横95.4cm
- 材質：木綿布、木綿糸
- 所蔵：文学部歴史学科加藤幸治研究室

マタンプシは山へ狩りに行くときに、髪がぼらぼらにならないように頭を縛るために用いられていました。マタンプシには美しい刺繍が施され、その多くは女性から男性へと贈られたものでした。

いまからおよそ100年前(明治30年頃)までマタンプシは男性だけのものですが、いつの間にか女性が頭に巻くようになり、現在北海道の観光地に行くと、女性が色彩豊かなマタンプシを頭に巻いている姿が見られます。



できる男は
チラ見せ

マキリ

小刀

- 寸法：縦10cm×横38cm×高さ2cm
- 材質：鞘はイタヤの木、グルミの木
- 所蔵：東北学院大学博物館

マキリは小刀の総称を指す言葉として使われます。山へ行くときに持つマキリはいわば標準型のマキリで、刃は少し反りがあり片刃です。

マキリはそれ1つで木を彫ったり、皮をはいたり、炊事にも使ったりするなど何にでも使える道具でしたが、主な用途によっていくつかの種類に分けられていました。またマキリの鞘にはそれぞれ思い思いの彫刻を施し、腰に下げて大切に持ち歩いていました。

大ききいろいろ!
通勤通学どうぞ!



サラニプ

背負い袋

- 寸法：縦22cm×横27cm
- 材質：シナの木の皮
- 所蔵：文学部歴史学科加藤幸治研究室

サラニプは背負い縄のついたシナの木の皮で編んだ袋です。山へ行くときは狩猟道具を、川へ行くときは網などを入れ、また畑仕事や山菜を採りに行くときはお弁当を入れるというように、手軽で持ち運びに便利な道具です。袋の大きさにより5種類に分けられます。

アイヌの人々の日常生活に影のように寄り添い役立っていた道具であるため、サラニプにも魂があり、大切に使いましょうという教えのウウエペケレ(昔話)にもなっています。

様々な道具を使い、アイヌの人々は自然と共生していました。その暮らしをのぞいてみましょう。



今でいう
ランプだよ



チノイエタツ

燈火用樺皮

- 材質：マカバ(ウダイカンバ)の木の皮
- 所蔵：東北学院大学博物館



ラツチャコ

燈明台

- 寸法：縦20cm×横18cm×高さ95cm
- 材質：ホタテガイ、木(ナラ)
- 所蔵：東北学院大学博物館

三股になった木の上にアッケテ(ホタテガイ)の殻をのせてその中に魚の油を入れ、布を縄状にしたものに火を灯した。以前はスネニとチノイエタツを使っていたが魚油を使うようになってラツチャコが使われるようになった。

スネニ

燈火用の樺皮をはさむ木

- 寸法：横22cm×高さ84cm
- 材質：木(ハンノキ)
- 所蔵：東北学院大学博物館

アイヌの人々は火の神を中心に生活していました。夜になってお客が来た時にいろいろの火をチノイエタツにつけ、スネニに挟み照らしました。また、たいまつとしても使われました。



カラパシシントコ

火つけ炭入れ

- 寸法：縦5cm×横6cm×高さ12.5cm
- 材質：木(エゾヤマザクラ)、炭(サルノコシカケ)
- 所蔵：東北学院大学博物館

カラパシ(火つけ炭)を入れておくもの。「シントコ」とは入れ物という意味。冬の山へ狩りに行く時に火をつけ暖をとった。普段はいろいろの火があるため使うことはほとんどなかったが、山に行くときには忘れてはならない道具だった。

冬山で火をつける
ための大切なもの!
まさにアイヌの人々
の生命線!

イキサップ

火熾し具

- 材質：木(イチイ、アカダモ)、石、ナイロンテープ
- 所蔵：東北学院大学博物館

カラパシ(火つけ炭)を木の板に空いた穴に詰め、その穴に弓の糸を巻きつけた木の棒をはめて弓を動かし、火をおこす道具です。木の棒をスマという石で上から押さえて固定し、弓を動かすことで摩擦が生まれ、その摩擦を繰り返して火がつく仕組みです。

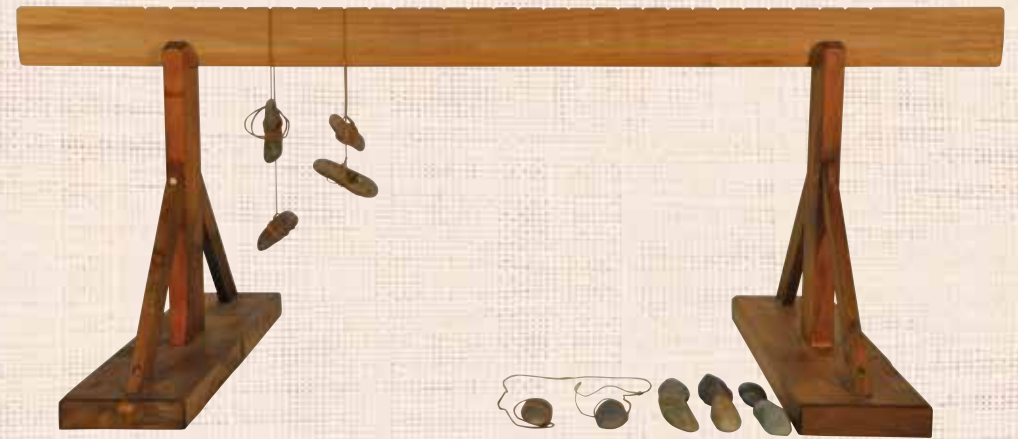


なかなか
火がつかないから
必死!!

Before



ガマで織った
カーペット作り!



アットウシカラペ

織り機

- 材質：木(クルミ、カツラ、トドマツ、ノリウツギ、ハリギリ)
- 所蔵：文学部歴史学科加藤幸治研究室

オヒョウの木で作った糸を織り、反物を作る際に使用する道具です。この時に織る布をアットウシといい、アイヌの人々の衣服を作るのに欠かせません。

10日程で一反完成させることが可能になりました。



イテセニ

編み機

- 寸法：縦59.8cm×横120.4cm×高さ46.6cm
- 材質：木(トドマツ、クルミ)
- 所蔵：東北学院大学博物館

ござ(チタラペ)などを編むための道具です。板の部分に等間隔で目盛りがついており、編むものの大きさによって調節します。編み方を変えることで、枕や背負い袋など様々な大きさや形の編み物を作ることができます。



お皿の機能まで
かねそなえた
優れもの!

鍋を選ばない
ハイスパック
コンロ



メノコイタ

まな板

- 寸法：縦18.4cm×横35cm×高さ2.5cm
- 材質：木(カツラ)
- 所蔵：文学部歴史学科加藤幸治研究室

カツラの木で作った、まな板と鉢とお皿とお盆の役目かねあわせた道具です。筋彫りやうろこ彫りなどの美しい彫刻が施された右側には山菜類の細かなものを刻むなどまな板として使用します。左側には切ったものを入れました。



スワツ

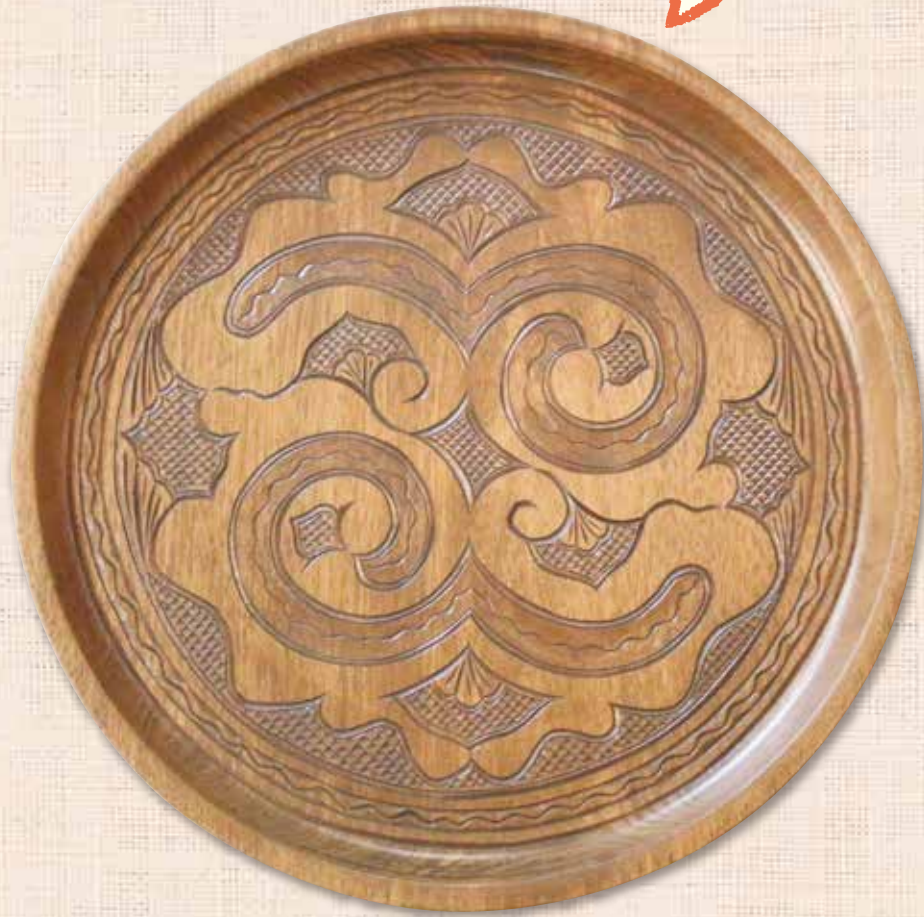
炉かぎ

- 寸法：縦6.5cm×横27.8cm×高さ67.6cm
- 材質：木(コクワヅル、イタヤ)
- 所蔵：東北学院大学博物館

かぎ棒が下の方についた上向きの刻み目に鍋をかけて使用する道具です。鍋の大きさに合わせてかぎ棒を上下させることにより、高さを自由に調整できます。一般的には木質が硬くて乾燥するとより一層丈夫さを増すカエデの木が主な材料として使われました。



ただのお盆じゃ
ありません!



イタ

盆

- 寸法：直径30.6cm×高さ3cm
- 材質：木(クルミ)
- 所蔵：文学部歴史学科加藤幸治研究室

イタは現在で言う盆や皿のことです。中心に彫られた文様は、渦巻きを意味するモレウ、そしてうろこを意味するラムラムと呼ばれています。

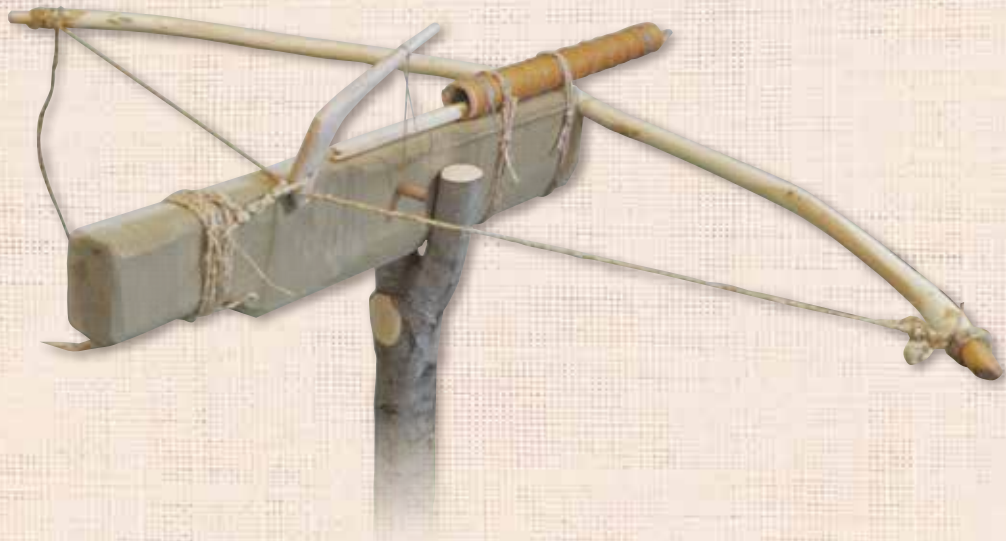
この文様を彫るための技法はアイヌの伝統として今でも受け継がれています。

狩りはアイヌの人々にとって必要不可欠でした。
いかにして動物を捕まえるのか、その工夫を見てみましょう。



狩

左右をよく確認しよう!



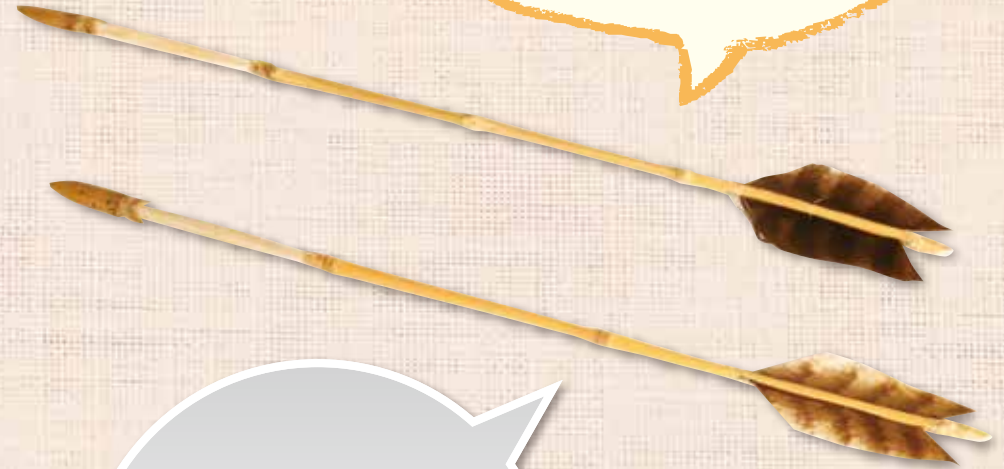
クワリ

仕掛け弓

- 材質：木(イチイ、カエデ)、蔓(ツルウメモドキ)、シラカバの皮
- 所蔵：東北学院大学博物館

クが弓、ワリが置くという意味があり、熊が通る道のそばの草むらに仕掛けます。クワリは先端がY字型になった棒を土に打ち込み、Y字状の上の部分にしっかりとした棒を水平に置いて縛ることで設置します。

モテたいならば矢を作れ!



アイ

矢

- 寸法：縦6.8cm×横69.6cm
- 材質：シカの骨、タカの羽根、根曲がり竹、鹿の腱
- 所蔵：東北学院大学博物館

狩りで使う矢は、いくつかのパーツに分かれています。先端からルム(矢尻)、マカニツ(錘)、アイズプ(矢柄)、アイラブ(矢羽)です。矢はピンネアイ(男矢)・マッネアイ(女矢)と区別されていました。アイヌの人々の間では女性の方が強いとされていて矢作りの下手な人は結婚が難しかったそうです。

テンは
アイヌの国では
神様



ホイヌアクペ

テン捕り罠

材質：蔓(ツルウメモドキ)
所蔵：東北学院大学博物館

ホイヌアクペはテンを捕るための道具で、山奥の小沢の縁に仕掛けます。2本のY字型の棒を土に打ち込み、その上に太めの棒を渡します。さらに上に棒を置き、片方はすのこを吊り上げ、もう片方は餌を垂らす役割を果たします。

すのこの下にテンが入り込み餌を食べることで仕掛けが外れ、石の乗ったすのこが落ちることでテンを捕まえることができます。テンは衣類や雨乞いの儀式に用いられました。



紐を棒に巻きつけていきます。紐は元に戻ろうとするので、その力を利用して餌のついた棒を固定します。そうするとバランスをとることができます。



餌を引っ張ると紐がほどけ、すのこを吊り上げていた部分に負荷がかかりすのこが落ちます。

シカシカ
詐欺かよ!



アイヌの子どもたちは自然のものを使いながら、遊びを通して狩りの仕方を学びました。どんな遊びがあったのでしょうか。



イパケニ

鹿 笛

- 寸法：縦8.5cm×横12cm×高さ2cm
- 材質：木(シナ)、シカの膀胱
- 所蔵：東北学院大学博物館

イパケニは鹿狩りのときに鹿を呼ぶための笛です。アイヌの人々には鹿の鳴き声が「ワイヨー、ワイヨー」と聞こえます。笛の音を仲間の声と勘違いし、近寄ってきた鹿を矢で仕留めます。

音色は
あなた次第!



ムックリ

口琴

■寸法：縦1.6cm×横16.4cm

■材質：竹

■所蔵：文学部歴史学科加藤幸治研究室

ムックリは竹で作った楽器で、大勢で演奏するというものではなく、ひとりで鳴らして楽しむものです。ムックリは口を広く開いたり、狭めたり、あるいは肺の奥までも共鳴させるようにして、さまざまな音色を楽しむことができます。昔は雨だれの音や小熊が親を慕う甘え声を真似るなど、上手に弾き分ける人もいたそうです。

アイヌの人々はお祭りも行っていました。
どのような道具を用いてお祭りを行っていたのでしょうか。



アイヌのお祭り・チプサンケ

アイヌ語で「舟おろし」を意味する「チプサンケ」は、丸木舟に魂を入れるための儀式です。お祭りではカムイノミという神への祈りが捧げられます。このときに使うのがイクパスイ(捧酒箸)とトゥキ(器)です。

カムイ、
しもしも〜



一番身近な火の神へ祈りを捧げるカムイノミ



イクパスイ

捧酒箸

- 寸法：縦2.5cm×横34cm
- 材質：木(ヤナギ)
- 所蔵：東北学院大学博物館

イクパスイは、これを使ってお祈りすると「神の国へ願い事を伝えてくれる」という箸です。神へお祈りするときに、この箸の先に杯の酒をつけて神々に御神酒をささげました。

アイヌの人々は神と対談することのできる唯一の道具と考え、人間の願いごとをこの箸に託し神へ伝えました。



古式舞踏である鶴の舞と剣の舞が披露されます。

博物館実習の様子をのぞいてみよう!!

2018年11月25日(日)、仙台・宮城の知られざる魅力を探るツアー企画「SMMA 見験楽学ツアー」(主催:仙台・宮城ミュージアムアライアンス)の第14弾として、「学都仙台Walker 一近代高等教育のおもかげを訪ねて」を実施しました。ここでは、ツアーの企画から当日までの様子を紹介します。

1 企画

今回のツアーは、五橋から片平周辺にかけて、大学生たちによる学都仙台に関するお勧めスポットを、案内人である東北学院大学博物館学芸員の加藤幸治先生・土岐山武学芸員および東北学院大学博物館学芸員資格課程3年生たちとめぐりました。また、めぐるスポットの厳選やその場所に関する情報収集、ツアーで配布するしおりやパネルなどの小道具の作成まで、そのほとんどが学生たちにより行われました。



2 ツアー準備

博物館実習を履修している学生たちが実際に大学周辺を歩いてみて、学都仙台にまつわるスポット、おもしろいポイントをピックアップしました。そこから詳しいルートや当日の流れをシミュレーションしながら準備を進めていきます。立ち寄りポイントには、大勢が集まれるような広い場所はあるのか、通行人の邪魔にならないかなどについても配慮をします。また、当日参加者へ配布するしおりの編集や現地で解説に使うパネルの準備も同時並行で進めました。



3 ツアー当日!

ツアー当日は天候にめぐまれ、雲一つない青空により絶好の町歩き日和でした。集合場所である東北学院大学博物館からスタートし、最初の目的地である東北学院大学本館に向かいます。続いて、同じく東北学院大学の敷地内にある東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)や、旧制第二高等学校跡などをまわり、東北学院大学サテライトステーションにて振り返りを行いました。学都仙台にまつわるスポットをめぐる今回のツアーは学生たちのアイデアや努力により、楽しい企画となりました。募集の段階からたくさんの応募があり、当日は23名のみなさんに来ていただきました。参加者のみなさんにも大変喜んでいただき、大成功でした!





カリナペカブ

マタンプシ

ムックリ

イパプケニ

マカニツ

タツニカブ

マカニツアイ

ホイヌアクペ

イテセニ

クワリ

タンパクオプ

イソノレアイ

サラニブ

アットウシカラペ

トゥキパスイ

カリンパウンク

イキサブ

ラッチャコ

マキリ

チノイエタツ

トゥキパスイ

イタ

タンパクオプ

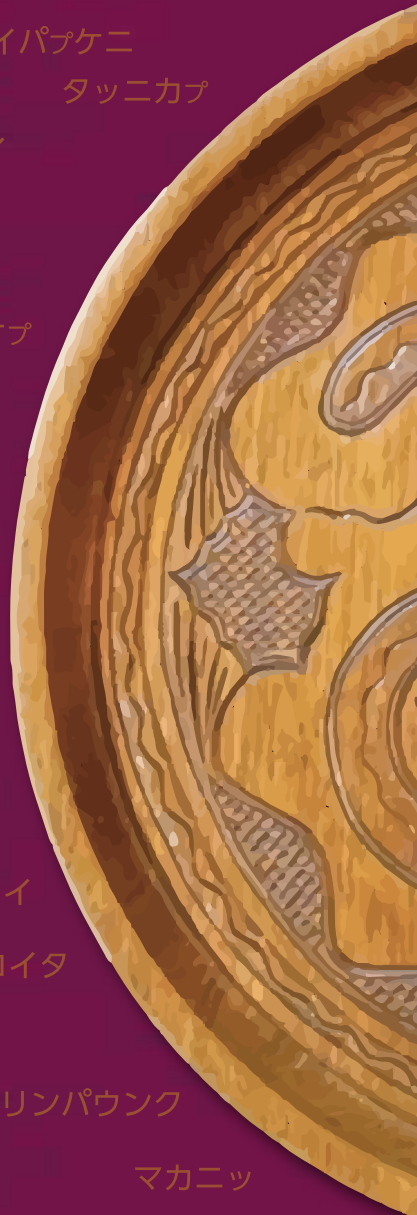
イテセニ

ホイヌアクペ

カラパシ

スワツ

イソノレアイ



メノコイタ

K O R E M I T E

学 古 考
示 史 歴
学 俗 民
展 展 展

カリンパウンク

VOL.4

編集・発行 東北学院大学博物館

発行日 2019年1月26日

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL : 022-264-6920

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/facilities/museum/>

マカニツ

タツニカブ

イパプケニ

アットウシカラペ